



みんなのMAEMUKI駅伝 in SAGA 肝ぞうWEEK

がんと闘病しながら、あるいはがんを克服した人など、困難を乗り越えて前向きになって生きていこうとする人々を応援するため、市民ランナーを導くつなぐみんなのMAEMUKI駅伝（アメリカンホーム保険会社主催）が、多久市を走りました。今年は、5月14日に東京六本木を出発し、日本各地を回った後、11月26日に戻る予定。7月19日に武雄市図書館を出発。多久市立病院玄関で襷を受け取り、市役所玄関に到着まで、12名のランナーで襷をつなぎました。孔子の里獅子舞と東部太鼓の歓迎を受けました。



▶多久市立病院前にて
みんなで力を合わせ、
GO!!GO!!

◀市役所前にて
到着の歓迎を受ける
井手さん



▲多久駅前での襷の受け渡し



◀孔子の里獅子舞で歓迎



▲肝ちゃんと多久翁さん



▲東部太鼓の力強い演奏

多久市立病院の後藤祐大院長は「肝がんの撲滅につながると思います。スタッフのみなさんありがとうございました」と応援に駆けつけた嘱託員、民生委員、婦人会をはじめ、市民のみなさんに感謝を述べました。

市役所到着後、最終ランナーの井手甲詔さんは「たくさんの方の応援を受け、心強かったです。今治療中であるが、他の人にも知ってもらい、肝炎検査を受けるきっかけにしてほしい」と笑顔で話しました。

市長コラム

温故創新

Message for citizen

「あいばれっこ」オープン

市長 横尾俊彦

多久駅北口のまちづくり交流センター、愛称「あいばれっこ」が8月6日にオープンします。

昭和60年頃に構想された多久駅周辺区画整理事業は平成4年に国で事業採択されて平成7年に事業開始。市議会の特別委員会審議を経て継続され、事業はまさに大詰め。その中核施設です。

駅周辺地域では、まちづくり協議会を設け、活力、環境、まちづくり等の議論を積み上げ、タウンマネージャーも置き、展開に努めてきました。

まちづくりといっても過大投資は後々負担となって問題になるのは他事例からも明らか。そこで「身の丈にあった」「コンパクトな」まちづくりを志向しました。「全国的にも貴重な取組み。他のモデルになりうる」の識者評価もあります。

「あいばれっこ」のイメージは「街なかのリビングルーム」。多くの人々の交流・憩い・出会い・語りあい・くつろぎの場となるようにとの思いがあります。「出あい・語りあい・ふれあい・郷土愛」など、多彩な「あい」という絵の具のパレットを活かす絵筆を持つのはあなた。お互いにカラフルな未来に向けて、頑張っていきたいものです。

施設内にはカフェ、ショップ、コンビニ、福祉コーナー、さらに都会で女性ファンも急増中のポルタリングも。キッズやブックのコーナーで親子デビューもありかも。屋上はオープンスペース。あわせて、多久市ふるさとハローワークもオープン。管理運営は一般社団法人たぐ21が担い、公設民営・官民協働・市民参加型で推進します。皆様の協力をお願いします。熱中症には用心を。